

令和5年度 第1回・第2回 市政モエタ一会議報告書



旧端出場水力発電所

新居浜市 企画部 秘書課

令和5年12月

(事業の目的)

新居浜市では、市政に関する市民の皆さんの意見をお聴きし、市政運営の参考とするために、市政モニター制度を設けています。

今回の市政モニター会議は、参加希望いただきました市政モニターの皆さんに、市の施設見学や職員からの説明を通して市政への関心を高めていただくことを目的に実施しました。

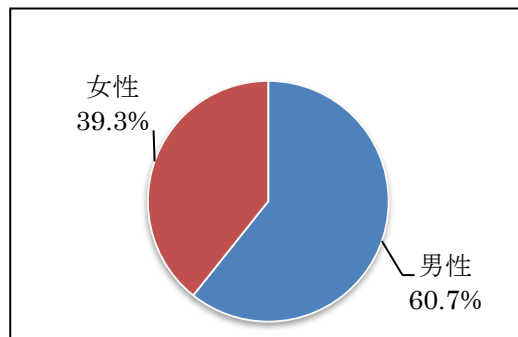
(日 程)

第1回会議	令和5年11月21日(火)	10:00～12:15
第2回会議	平成5年11月21日(火)	13:30～15:45

(参加者の状況)

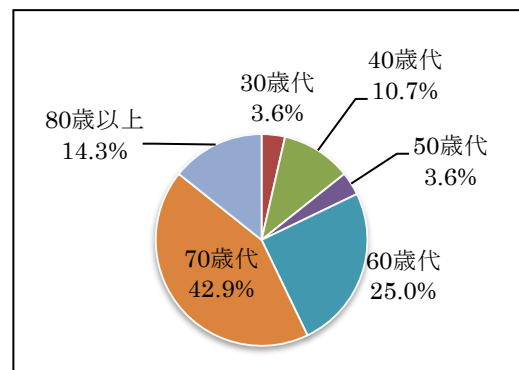
<性別>

	人数	割合
男性	17人	60.7%
女性	11人	39.3%
合計	28人	100.0%



<年代別>

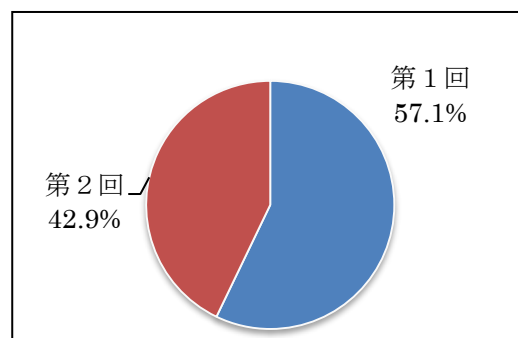
	人数	割合
20歳代	0人	0.0%
30歳代	1人	3.6%
40歳代	3人	10.7%
50歳代	1人	3.6%
60歳代	7人	25.0%
70歳代	12人	42.9%
80歳以上	4人	14.3%
合計	28人	100.0%



※年齢は令和5年4月1日時点

<参加回別>

	人数	割合
第1回	16人	57.1%
第2回	12人	42.9%
合計	28人	100.0%



※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

(見学先及び内容)

旧端出場水力発電所

【施設概要】

旧端出場水力発電所は、明治後期の増大する電力需要に対応するために、明治 45 年（1912 年）に竣工しました。

別子銅山の近代化を推進した大規模発電所で、出力は当時の国内で最大級の 3,000kW でした。その後、発電機の増設等により最大で 4,800kW の発電を行いましたが、昭和 45 年（1970 年）には、発電所としての役割を終え、59 年の歴史に幕を下ろしました。

平成 22 年（2010 年）に住友共同電力株式会社から新居浜市へ寄贈され、平成 23 年には国登録有形文化財に登録された旧端出場水力発電所ですが、建物の保存活用のため平成 30 年から進めてきた耐震補強等工事が昨年度末に完了し、令和 5 年（2023 年）3 月 28 日（火曜日）から一般公開されています。

- ❖所在地 … 新居浜市立川町 594
- ❖建築面積 … 528 m²
- ❖構造及び形式 … 煉瓦造 2 階建、鉄板葺
- ❖登録有形文化財 … 登録年月日 平成 23 年 1 月 26 日（登録番号：38-0095）

【旧端出場所水力発電所 現地説明】

○施設対岸（マイントピア別子側）より

明治 30 年代に銅山の近代化による電力需要が高まる中、明治 35 年には端出場火力発電所、また明治 37 年には少し上流に落シ水力発電所がありましたが、どちらも 90kW の小規模な発電所で、とても電力需要に追いつけるような状態ではありませんでした。そのため満を持して明治 45 年に建てられたのがこの旧端出場水力発電所で、別子銅山の近代化の要素である「採鉱」、「製錬」、「運搬」この 3 つの要素全てにこの旧端出場水力発電所の電気が使われました。

建物は、見てのとおり重厚な煉瓦造りの建物で、別子銅山産業遺産というだけではなく、日本全国の水力発電所の貴重な遺産の一つとして保存する価値があるということ、そして別子銅山の近代化、ひいては新居浜市発展の原動力となった発電であったため、国にもその歴史的価値が認められて、文化庁の補助を受け、平成 30 年から 3 年半の歳月と 6 億 9 千万円の工事費をかけて耐震工事を行いました。

外観的には、発電所の割にはアーチ窓や二連アーチ、また正面の方には円窓も施されており、まるでヨーロッパの教会のような意匠となっており、これが旧端出場水力発電所の一つの特徴となっています。設計したのは、別子銅山の臨時建設部の新進気鋭の技師などで、非常に意匠が凝らされた建物となっています。

対岸から見ると建物の下の石垣に穴がたくさん開いているのが見えますが、穴は全部で 11 個あり、その内クレーンの台座の下に 3 つの大きな穴が開いていますが、両側の穴がペルトン水車を回した水を放水する放水口です。内部に照明が点いているのが見えますが、これは、放水路の内部に入ることができるように整備したもので、直接真下からペルトン水車を見ることができるようになりました。さらに、今回の公開に合わせて、小さいお子様にもわかりやすく見学してもらうために、AR（拡張現実）を整備しました。スマートフォンやタブレットなどでアプリをインストールしていただき、この看板にかざすことで、実際の風景にデジタル映像を重ね合わせた映像を見ることが可能になります。（タブレットで実況）



この場所でARを表示すると、現在の風景に放水口から勢いよく放水されていた往時の様子が重ねて表示され、動画で在りし日の端出場水力発電所を見ていただくことができます。また、このARによる拡張現実の表示のほかにも、合わせて解説動画なども見られるように整備しており、施設の理解を深めていただきやすいようにしています。また、この場所以外にも端出場鉄橋や端出場隧道、観光坑道入口や内部など園内9箇所にAR体験ができる場所を整備しています。今回の旧端出場水力発電所の公開とともに他の端出場地区の文化財などについても皆様にご紹介させていただく機会となればと考えています。令和5年3月28日に一般公開を開始し、現在7カ月くらい経過していますが、10月末現在約2万5千人の方に見学にお越しいただいています。



❖屋根について

調査したところトタン板が張られていたのですが、大正か昭和に張り替えられた際にルーフィング、油紙を敷いていたので、鉄板の下の野地板（24mm）は、結構健全な状態で残っていました。754枚中、水がかかって腐食していた軒先のほうの傷んでいたもの113枚を部分的に取り替え、残せる部分はそのまま残しています。今回は野地板の上にガルバリウム鋼板を葺き替えましたので、おそらく持ちは良いと思います。

❖水圧鉄管について

水については、この前に流れている足谷川の水ではなく、山向こうの吉野川水系の銅山川支流の水を利用しており、落差は597.18m、水圧鉄管の数は235本、延長は1,270mです。急峻な尾根づたいに水圧鉄管を設け、その落差の水圧で水車を回して発電していました。

○泉寿亭前

北新町の図書館のところにあった泉寿亭です。昭和12年に住友各社の迎賓館としてつくられたものです。ここは特別室で迎賓館の全容ではなく、建物の一部分のみを移築したものです。お聞きしたところによると、泉寿亭には、住友でも社長や会長、住友家の方などが泊まられていたようです。（内部見学）

○第四通洞前、マイントピア側について

石垣が駐車場の方まで300m余りあり、高さは高いところで20mあります。国や県、大学関係者の方が来られた際にはこの石垣を見て素晴らしい産業遺産だとよく驚かれます。そして、今回旧端出場水力発電所の整備により、遊歩道が整備され、この石垣が見えるようになったことにも大変な価値があると言われる。市内の人にとっては見慣れた光景かも知れませんが、外部から来た方は皆さん驚かれて、産業遺産として遺していかなければならないとおっしゃられます。この石垣は元々あったわけではなく、第四通洞



の鉱石以外のズリ石で埋め立てられていったものです。第四通洞と四通橋は、皆様ご承知のようにここから入坑して、鉱石を運び出していた場所です。時代的には、大正4年に延長約4,500m余りの第四通洞が貫通し、この四通橋は大正8年に完成。その後端出場の選鉱場が昭和2年にできました。第四通洞からの鉱石を端出場で選鉱していた時代と、その前は東平から黒石へ索道で鉱石をおろしてきて、惣開へ運ぶ、と時代によって色々変遷していきます。もう少しさかのぼると本当の端出場というのは観光坑道の突端で石ヶ山丈から索道がおりにていたところ。運搬の経過というのは時代とともに変わって

きます。それはなぜかという、掘り進んでいくと、掘った鉱石をわざわざ上に持ち上げるよりも下に第一通洞、第三通洞という水平坑道、つまりトンネルを掘ってそこから運搬したほうが効率的なので、運搬の方法が変遷していきます。運搬にも近代化が進められてきたということで、そこにも電気が使われるようになってきました。

なんとかここの石垣全体の木や草を取って、元の石垣の姿に戻したいと考えていますが、お金がかかるのでなかなかできないことが現在の悩みです。

○県道より（石垣正面）



以前は車で通行しても、雑木が生い茂っており対岸の石垣は見えませんでした。この遊歩道を整備するのにあたって、この石垣を皆様に見ていただきたいという思いもあって住友林業に許可をもらい、雑木等を撤去し、全景が見えるよう整備しました。大正5年には東平に採鉱本部がありましたが、昭和5年から閉山まではここに採鉱本部がありました。その採鉱本部を観光施設のマイントピア別子として平成3年に整備し直したということになります。法面の木を撤去した時には県外ナンバーの車が列をなして写真を撮りに来ていた、と施工業者から

聞いています。この場所のARでは、端出場造成の映像を見ただけです。映像からは、造成の過程がわかります。鉱山の従事者がどこに住んでいたかという（マイントピアの方を向いて）手前側の鉄塔の真下くらいから次の鉄塔までの中間あたりにかけて鹿森社宅という社宅があり、そこに住んでいました。大正5～7年にかけて300戸弱くらいの社宅が整備されており、造成当時の様子なども写真で紹介しています。

○旧端出場水力発電所県道側水圧鉄管跡

県道から旧端出場水力発電所の反対側、山の斜面を見ていただくと、ずっと上方まで続く階段が見えると思います。これが600m上の貯水槽まで続いている管理用の階段です。途中、半円形にかたどった石がありますが、これが水圧鉄管を乗せていた台座で、水圧鉄管が実際に使われていた当時のままの台座です。元々あった水圧鉄管自体は既に撤去されていますので、オリジナルの水圧鉄管は残っていませんが、皆様に見学いただくために一部復元しています。その復元した水圧鉄管は西条の大保木水力発電所で使われていたものを住友共同電力さんから譲り受けて設置したものです。元々この場所に設置されていた水圧鉄管の外径は68cm、上の石ヶ山丈の水槽出口部分で88～89cmで、上の方が大きくて下の方は絞っているという形状になっています。ここから道路の下を通過して建屋の地下に入ります。



今回の耐震工事にあたって、文化庁から言われているのは、建屋の耐震工事だけではなく、吉野川水系の水を銅山の日浦通洞と第三通洞を通過して、煉瓦水路で石ヶ山丈貯水槽まで持って来ているので、その水路システムそのものが分かるようにしてほしいということで、一部分鉄管を復旧した形で展示をしています。石ヶ山丈の方は住友林業の許可をもらって、以前市職員で木の伐採等現状保存の取り組みを行いました。

○旧端出場水力発電所

この建物は明治45年（1912年）竣工の建物です。元々水力発電所は住友共同電力が維持管理をしていた建物で、昭和45年までは発電所の機能として、昭和52年までは変電所として利用された後、平成22年3月に住友共同電力から新居浜市へ寄贈いただき、現在は市の管理する建物となっています。その後、こ



この建物をどのような形で皆様に見ていただくか、また耐震補強、活用はどうするかというのを平成28年、平成29年の2カ年で保存活用計画を定め、それに基づき、平成30年から約3年半をかけて耐震改修工事を実施しました。それに合わせて皆様に安全にこの施設まで訪れていただけるように、アクセス階段やアクセス通路など周辺整備を進めて、令和5年3月28日に一般公開を開始しました。建物の概要を説明すると、煉瓦造で一部2階建、横15m、縦35m、建築面積528㎡です。延べ床面積は700㎡弱となっています。3月オープン後10月末で2万5千人ほどの方に来場いただいておりますが、マイントピア別

子に観光で来られてこちらへも立ち寄る方もいらっしゃいますので、県外の方もたくさん来ていただいております。この建物ですが、平成22年4月からは新居浜市の管理で、その後平成23年4月に国の登録有形文化財となっています。現在新居浜市には国の登録有形文化財が17件あり、別子銅山文化遺産課で整備に携わっているのはこの旧端出場水力発電所の他にも星越町にある住友山田社宅があります。住友山田社宅は令和2年8月に国の登録有形文化財となっており、現在一般公開に向けて整備を進めているところです。平成19年にはこの建物の他、旧別子や東平の産業遺産も含めて、産業遺産群として経済産業省で登録をされており、その証明のプレートが入口にあります。



建物内部は、見てのとおりこの発電所の大空間を確保するように耐震補強工事を実施しました。ポイントとしては大空間の保持と、マイントピア側からの景観、具体的にはマイントピア側から耐震補強が見えないように配慮しました。白い鉄骨だけが水平構面の補強で入れられた鉄骨になります。他の煉瓦遺産のところでは柱の所に鉄骨を建て、梁で止めていく工法が多くみられますが、梁で空間が分断されてしまうので、そのような補強の仕方はやめようということで、構造、建築、電気などの大学の先生方や色々な方に入っていていただいて補強方法を考えたのですが、そ

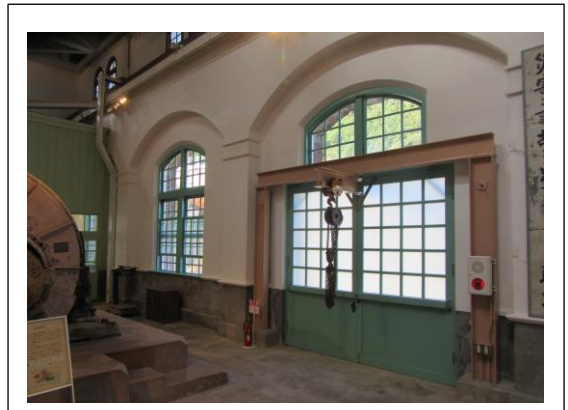
れが一番大きかった理由です。最小限の鉄骨しか見えないように工夫しています。もう一つは、鉄骨を入れた場合、水路や風洞などの遺構がつぶれてしまうので、文化財的に国からも下の放水路の保存をするように言われていたので今回鉄骨は建てずに工事を行いました。柱の所に2本ずつ10mまっすぐ穴をあけて、15.7mmのアラミド繊維を差し込んでいます。妻壁も14.9mありますが、この間にはステンレス筋を入れて行っています。鉄骨が入っている煉瓦の所には目地に3mmのアラミド繊維を縫い込み、煉瓦がバラバラにならないように補強しています。その3mmの繊維を煉瓦に縫い込んだ距離が1,270mmで奇しくも鉄管と同じ長さを縫い込んであります。

グレーの機械が明治 45 年に座ったドイツのシーメンス社製の発電機とフォイト社製のペルトン水車で。あとのクリーム色のものは周波数変換機と言い、この電力を変換する機械の設置により鉱山は閉山まで 30 ヘルツで通しました。というのは、ヨーロッパでは電気が 25~30 ヘルツが使いやすい周波数帯で、シーメンス社が入ってきた時も 30 ヘルツで入ってきたので、鉱山は全て 30 ヘルツの生産設備などが入っています。途中から西日本が 60 ヘルツ、東日本が 50 ヘルツになってくると 60 ヘルツの周波数の電気を 30 ヘルツに変えるため、昭和 40 年代に入ってからクリーム色の 3 台の機械で変換するようになりました。博物館など、他の場所に発電機を移して展示している所は全国他にもあるのですが、元々稼働していた位置にそのまま展示をしている、というのがかなり貴重なものでそれを見ていただくことができるのがこの旧端出場水力発電所の特徴であり、注目していただきたいところの一つでもあります。



入口から正面 2 階部分を見ると、現在は窓が入っていますが、建設当初は窓はなく、両側に廻り階段が設置されており、制御盤がずらっと並んでいました。後の時代に騒音や埃対策として窓を入れました。ポイントは何が制御盤が大理石でできているところです。3 枚だけ当時の大理石が残っていますので見てみてください。

こちらは直流交流の変換機で、よく見ると住友別子鉱山新居浜製作所（現在の住友重機械工業）製です。これは昭和 4 年に製造されていますが、新居浜製作所になるのは昭和 3 年、元々は明治 21 年に別子銅山の工作方で始まっている会社です。昭和 9 年に新居浜機械製作、昭和 15 年に新居浜機械工業、昭和 44 年に浦賀重工業と合併して、住友重機械工業となります。クレーンも重機の製造品。別子銅山の電気というのは電気を血液に例えたら、ここは心臓部であるということです。それを山に血液を送り、四阪島まで血液を送って、別子銅山が大きくなって住友が分社化していく原動力になりました。大正 2 年設立の住友肥料製造所が住友化学になるし、製作所が住友重機になるし、電気というのは住友発展の礎のひとつと言えます。そういう意味合いと住友が発展するという事は、新居浜のまちづくりが発展する契機となったということになります。



❖ ジオラマでの説明

- ・日浦通洞（取水口 5 つ）⇒第三通洞（水路用トンネル有）⇒煉瓦水路⇒石ヶ山丈貯水槽⇒旧端出場水力発電所水圧鉄管
- ・貯水池も開口部なので落ち葉や石が混じりこんで鉄管を傷める為、当時の住友の社内報を見ると、鉄管の掃除は年末年始と 5 月の年 2 回行われており、全ての水を抜いてコールタールを塗ったり鉄管や接続部を維持管理したりしていたようです。
- ・明治の時代から水の大切さを認識し、一大事業を成し遂げて、それを引き継いで現在も水をもらえていることも素晴らしい。
- ・四阪島への海底ケーブルでの送電についての資料もある。大正 11 年に約 20km の海底ケーブルを敷き、当時アメリカのサンフランシスコにあった海底ケーブルが 7 マイル、約 11km が世界最長だったので、それを抜いて世界最長の海底ケーブルとなりました。それもこの水力発電所の特徴の一つです。

❖ 2階配電盤室解説

旧端出場水力発電所の沿革などを15分ほどの動画にまとめたものをモニターでご覧いただくことができます。上部の天井吊りモニターには、稼働当時の維持管理やメンテナンスしていた時の古写真130枚ほどを住友共同電力から提供いただき、それを順番に展示しています。現在設置しているパネルは、別子銅山産業遺産創造塾の成果パネルです。今新居浜市では、小学生・中学生にふるさと学習といって新居浜市の歴史や別子銅山の歴史を学ぶ取り組みを学校でしていただいているのですが、その延長線上で高校生にも学びを通じて別子銅山の魅力を発信していただく人材育成のための別子銅山産業遺産創造塾というのを毎年春から夏にかけて開催しています。今年も9名の方に参加いただき、色々なフィールドワークなどを通じて、高校生の視点で別子銅山の魅力や産業遺産の活用方法などをまとめてもらったものをパネルとして展示しているものです。展示ケースでは、旧端出場水力発電所の耐震補強に使用したステンレスやアラミド繊維なども展示し、どこか場所に使用しているかを立面図で表しています。



❖ 地階特別高圧室解説

こちらに展示しているのは耐震工事の際に実施したボーリング調査の結果やコア抜きした部分などの建築資料です。耐震工事をしていた業者さんが驚いていたのはこの10mのコア抜きには「いわおこし」みたいな穴が全然入っていないということでした。要は明治時代にはコンクリートのモルタルは非常に高価なもので、石灰などの混ぜ物をしていることが多かったのですが、そういうのが混じっていると「いわおこし」が入るのですが、ここにはそういうのが一切入っていないので、そういう手抜きが見られないということです。また、煉瓦を加工する際も目地が非常にしっかりと固く入っていて、施工に苦労したそうです。昭和21年に南海地震、平成13年の芸予地震と大きい地震が2回も来ていますが、クラックは1mm以下のものが7本しか入っていません。建築後110年以上が経過している建物としてこのクラックの数量はあり得ないというくらい頑丈にできている施設だということです。設計者もすごいが職人さんがきちっとした仕事をしているからこそこれだけ時間が経っても殆どクラックがない状態で、現代人は学ばなければならないことだと思います。あと、ドイツのシーメンス社製の機械、これが高価なものであり、またこの建物が倒壊して電気がストップしてしまったら別子銅山全てに影響が出てしまいます。そういう使命感と明治の人の気概でこの建物はできているわけです。ボーリング調査の結果も展示しています。8m以下は青石、8～3mは互層構造で地盤強化が図られています。あとのところはすぐ岩盤です。その上に明治の職人さんがきちっとした煉瓦を積み上げて、110年経過しても頑強な建物であり続けられるのだと思う。ただ単に発電所としてみるだけではなく、建築当時の明治の人の気概を感じ、建築・銅山に携わった人のすごさをこの施設から感じてもらいたいと思います。

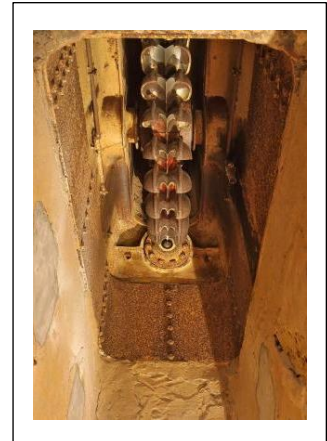
文化財の耐震補強の指針は、文化庁で定められており、今回も震度6強から7程度に耐えられるような補強を施しています。震度6強から7というと阪神淡路大震災クラスですが、そのくらいのクラスの大地震にも耐えることができる対策をとっている建物となっています。

○建物外観について

建物の壁に黒い部分が確認できると思いますが、これは迷彩としてコールタールが塗られた跡です。空襲の際などに敵から目立たないようにするためにコールタールを塗っていました。これも建物の経過そのものを保存するためにわざと残しているものです。洗浄だけして黒いところは残していますのでこういった外観となっています。

○放水路内部にてペルトン水車を真下から確認

放水路の中からペルトン水車と高圧の水の噴出口を確認いただけます。噴出口のニードルで水量を調節していました。回転数は1分間に600回転です。石垣の穴は、塞がれているところもありますが全部で11個穴が開いているうちの真ん中3つが水が出ていた穴で、残りの8個が風洞（空気穴）です。1号機から4号機まで発電機が据え付けられる予定だったので、1機あたり2か所の給排気用の穴、風洞が設けられています。塞がれているところは、中に動物が入ってしまうので塞がれています。（放水路内部からペルトン水車を確認）



©NPO 法人新居浜まちゆり隊

(参加者アンケート)

市政モニター会議に参加いただいたモニターの皆さんに、感想やご意見をうかがい、今後の参考とするためにアンケートを実施しました。

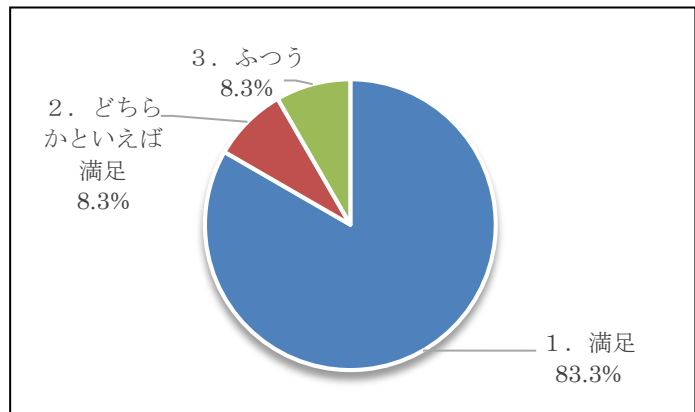
<アンケート概要>

調査対象者	第1回・第2回市政モニター会議参加者 28人
調査期間	会議実施日～令和5年12月8日(金)
調査方法	会議実施時にアンケート用紙を配布し、後日郵送で提出
回収数(率)	24人(85.71%)

<調査結果>

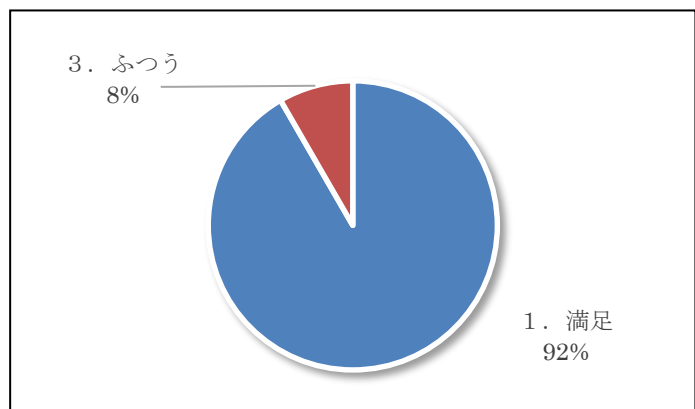
Q1. 今回の施設見学のテーマや見学先の設定についてどう思いましたか。5段階の満足度でお答えください。(1つ選択)

1. 満足	20人
2. どちらかといえば満足	2人
3. ふつう	2人
4. どちらかといえば不満	0人
5. 不満	0人
合計	24人



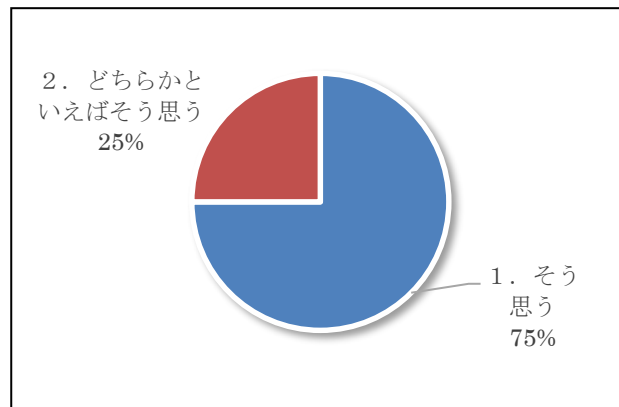
Q2. 今回の施設見学の内容や職員からの説明はいかがでしたか。5段階の満足度でお答えください。(1つ選択)

1. 満足	22人
2. どちらかといえば満足	0人
3. ふつう	2人
4. どちらかといえば不満	0人
5. 不満	0人
合計	24人



Q3. 今回の施設見学に参加して、市の取り組みに対する理解や関心が高くなったと思いますか。(1つ選択)

1. そう思う	18人
2. どちらかといえばそう思う	6人
3. どちらかといえばそう思わない	0人
4. そう思わない	0人
合計	24人



Q4. 今回の施設見学会に参加しての感想やご意見を自由に記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・施設見学会、お世話になりありがとうございました。設備もきっちり改修して頂き、また見学ルートも立派に整備して頂き、感謝です。将来にわたり社会の皆様の役に立つ施設であり続けることを祈念いたします。本当にありがとうございました。
- ・マイントピアには家族で来たり、お風呂に来たりしていたが、発電所は外から見るだけでした。工事をしているのは知っていましたが、わざわざ見学？と思っていたけれど説明を聞きながら見て回ると、すごさや歴史を知ることができて、すごく満足しました。個々でも家族で見学に来て、ゆっくりARを見たりしながら子供達と新居浜の歴史を深めたいと思いました。良い機会を頂き、ありがとうございました。
- ・今回は天候に恵まれ、大変気持ちの良い見学会でした。雨天の場合には恐らく大変になったと思います。スタッフの方の接し方も大変良かったです。ありがとうございました。
- ・マイントピアの施設は何度も行ってますが、端出場の発電所は初めて見学して、大変よく理解できました。また今度ゆっくり行ってみたいと思いました。他の人にも宣伝しておきます。
- ・私は18~19年前に発電の水源の貯水槽まで石段を登ったことがあります。岩をセメントで固めたその上を歩きました。水は溜まってなかったです。発電所まで下りましたが、内部へは入れなかったです。写真やチラシで内部を見てはいましたが、今日の見学で実物を目の前に説明者の話を聞きながら壮大さに感動しました。新居浜発展の源となった発電所と思っています。
- ・市の方は、皆様とても感じ良いですね。説明して頂いた方も大変わかりやすかったです。
- ・マイントピア別子は建設時から仕事として関わり、とても感慨深いものがあります。旧端出場水力発電所は、産業遺産としてマイントピア別子の目玉にもなり得ると思います。是非、対岸へのアクセスとして歩道橋を新設されると石垣への見学にも役立ち相乗効果が出て集客につながると思います。ご検討をお願いいたします。
- ・見学時間がもう少しあるとよかったのではないかと思います。お昼をまたぐなら食事がある方がいいです。食事代は自分でもちます。職員さんにはお世話になりました。ありがとうございました。
- ・説明が大変しっかりしていてよかった。今後とも、一層のレベルアップ期待します。
- ・設備等の説明は分かりやすく、良かったと思う。説明していただいた方も言っていたが、石垣、水

道、水圧鉄管の整備をすれば産業遺産としてもっと注目されるのではないかと思います。

- ・水圧鉄管跡は初めて見る事が出来て、見学に来た価値がありました。ガイドさんの説明が的確でよくわかりました。施設に関して、マイントピア別子と、発電所を直接繋ぐ連絡橋ができれば利便性がアップします。
- ・とても有意義な見学会でした。帰宅してパンフレットを読みながら、今日の説明やAR画面を見せてくださったことがよくわかりました。多くの方々の知恵と、労力と努力と、頭が下がります。大切に保存して、後世に語り継がなければと思いました。沢山歩いて、健康にも一役、良かったです。ありがとうございました。
- ・今回の施設見学、とてもよかったです。私は別子銅山に興味があり、これまで各所でビデオ撮影して来ました。今後も続けて行きたいと思います。
- ・今回の様なモニターの人たちが集まる場合、自己紹介程度の挨拶（交流）があっても良いのではないのでしょうか。
- ・旧端出場水力発電所は住友共同電力に勤めていた人たちから、内部の写真とかよく見せてもらっていましたが、水力発電の仕組みもよくわからず、当時のまま残っているのが貴重であること等、全く理解できていなかったのも、今回詳しい説明を受けることができてよかったです。
- ・久しぶりのマイントピア別子では初冬のすばらしい景色と新居浜の別子銅山に関連した歴史や発電所のシステムなど良い見学会でした。産業の発展には発電が欠かせないこと、水力発電のシステムなど少しばかりではあるが、知識として知ることができたのは良い経験でした。
- ・旧端出場水力発電所の説明が大変分かりやすく面白かったです。新居浜が誇る別子銅山の産業遺産の保存・活用の考え方に触れることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・障がい者に対する配慮が全くない施設。お手洗いが無いのも大きな問題。6億円もかけたのならもっと障がい者目線で。
- ・施設の周りの管理（景観）もう少ししっかりしたらよい。
- ・市内の歴史遺産を守る取組がよく分かりました。これからもよろしくお願いします。
- ・水車も発電機も計器がたくさんありました。今、私達は人の力だけであれ程の機械を整備すると思うと、先人の遺された歴史は本当に計り知れない事でしょう。改めて、この町の財産に新たに触れることができました。
- ・案内していただいた方の説明がわかりやすかったです。新居浜に住んでいて知らないことばかりでした。
- ・此度最大の難題は建築後100余年、煉瓦造建物の耐震化、補強だったはずですが、しかも、結果として外来者のほとんど目につかない構造・工法の選択でした。ここまでの経緯、綿密な調査、学術的な検討等々「苦渋の集積」そして「叡智の結果」となりました。これこそが本件大成功の原点ではなかったのでしょうか。
- ・ARで動画が見れてよかった。職員の説明も詳しくて分かりやすく、勉強になりました。
- ・戦時中の防爆塗装を残していただいたこと、汚れではなくアート・心しての選択でした。除去すれば大事な煉瓦を傷めるだけでなく、100年の計、一大アートの喪失でした。

Q5. 来年度以降の施設見学会で、設定したら良いと思うテーマや見学先があれば記入してください。(自由記入)

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。本報告ではご意見の一部を紹介します。

- ・上下水道施設関連
- ・給食センター
- ・四阪島
- ・広瀬邸、広瀬歴史記念館
- ・東平、東洋のマチュピチュ
- ・ごみ焼却場
- ・山田社宅跡の観光化・事業の進捗状況
- ・下部鉄道を歩く
- ・フォレスターハウス
- ・新居浜の歴史を物語る産業遺産
- ・日暮別邸
- ・新居浜の文化・伝統の継承、スポーツの振興、社会教育等
- ・市職員の作業風景、実態
- ・別子銅山や大島の自然観察会
- ・銅山峰やツガザクラ、ミツバツツジなど
- ・大島の史跡、村上水軍発祥の地、船かくし、大島八幡神社、浄土宗願行寺等

～ご協力、ありがとうございました～



©NPO 法人新居浜まちゅり隊